

「四肢形成不全や欠損、切断の子ども達を対象とした ランニングスクールの開催」

2021 年 3 月 25 日

琉球大学病院リハビリテーション部 神谷武志

1. 背景

四肢の形成不全や欠損、切断を持つ子ども達や障がいを持つ子ども達の多くは、歩く、走る、両手を使うなどといった経験がないまま、成長する。このような障がいをもつ子ども達が、友達と同じことをしたり、体を動かしたりすることは決して簡単なことではない。我が国が 2014 年に批准した「障がい者の権利に関する条約」では、「障害のある子どもの発達しつつある能力の尊重、および障がいのある子どもがそのアイデンティティを保持する権利を尊重する」「障がいのある子どもも他の人と平等にレクリエーションやレジャー、スポーツといった文化的な生活に参加する権利を持つ」と謳われている。障がいを持つ子どもが自分の記録に挑戦し、達成することで自己肯定感が育成され、身体および精神の健全な成長と発育へと繋がる。また義手や義足といった補助具の情報を保護者や医療者に提供し、これを啓発活動をすることにより、障がいを持つ子ども達の活動が広がり、社会参加を促すことに繋がる。これらを支援する社会に近づけたという理由により、本イベントの開催を企画するに至った。

2. 目的

沖縄県内の四肢形成不全や欠損、切断また手足に障がいを持つ子ども達に運動や義手や義足の装着、体験する場を設け、子どもの社会活動を促すこと、身体を動かすことのすばらしさや挑戦する心を体感してもらうこと、また障害者スポーツの情報を提供し、パラリンピックを目指すアスリートの発掘や育成へと繋げることが目的である。

3. 運営メンバー

大会長	神谷武志	琉球大学病院リハビリテーション部	副部長
実行委員長	村上（渡久知）かおり	琉球大学病院リハビリテーション部	作業療法士
実行委員	宮城朝雄	琉球大学整形外科学講座	技術職員
	浅見晴美	琉球大学病院リハビリテーション部	医師
	砂田宏典	(有)砂田義肢製作所	代表
	長嶺寛子	琉球大学病院リハビリテーション部	理学療法士

上地一幸	琉球大学病院リハビリテーション部	理学療法士
瑞慶山良太	琉球大学病院リハビリテーション部	理学療法士
知花由晃	琉球大学病院リハビリテーション部	理学療法士
小山和	琉球大学病院リハビリテーション部	理学療法士
森岡正人	琉球大学病院リハビリテーション部	作業療法士
安田知子	琉球リハビリテーション学院	教員
島袋公史	沖縄リハビリテーション福祉学院	教員
玉城和弥	リハビリテーションクリニックやまぐち	理学療法士
我如古修	名護療育医療センター	理学療法士
宮沢優紀	株式会社遊道	代表取締役

4. 関連イベントの見学

A. おやひろば 2019

日時：2019年8月25日(日)
 会場：兵庫県立リハビリテーションセンター
 対象：同センターに通院中の子どもやそのご家族
 (主に義手利用者)
 内容：ニジマス釣り、スーパーボールすくい、シャボン玉、
 バランスとんぼづくり、横断幕づくり、情報交換会



筋電義手の女兒

B. PAFF meeting 思いっきり走ろう！ in 福井

日時：2019年11月24日(日)
 場所：福井県陸上競技場(9.98 スタジアム) 室内練習場
 対象：福井大学医学部附属病院や関連施設通院中の子どもやそのご家族
 内容：体力測定、ランニングスクール、車いす競技、レーサー試乗
 招聘パラアスリート：山本篤選手、岸澤宏樹選手



イベントの様子

5. 運営会議 (計 12 回の会議を実施)

主な議題：申込フォームの作成、イベント案内ポスターの作成・印刷、大会ロゴの作成、
 イベント内容(体力測定、ランニング指導、車いすスポーツ体験、義手・義足の体験)、
 運営マニュアル・体力測定マニュアルの作成、緊急時の医療体制の構築、義肢の借用、
 対象児・関係者へ案内、新型コロナウイルス感染予防対策、オリジナルTシャツ作成



イベントロゴ (デザイン 具志堅ひかる 一色万紀子)

沖縄 PAFF
キッズランニングスクール・車いすスポーツ体験

対象：手足に欠損や障害のある子どもたち(~18歳)
 見学のみのOK
 ご兄弟姉妹・家族・お友達 **参加費無料**

※本イベントは、(公財)おきぎんふさと復興基金の助成を受けております。

期日：2020年2月29日(土)
 時間：13:00~16:00 (受付開始 12:15~)
 会場：豊見城市民体育館
 内容：①パラアスリートのかけっこ教室
 ②車椅子スポーツ体験
 ③義手・義足体験

申し込み期間：11月1日(金)~11月30日(土)頃まで
 ※応募多数の場合はご希望に添えない場合がございます。ご了承ください。

★参加選手★
 沖縄市生まれ、29歳の時にマイク香取に介助師として出会い、21歳から競技を始める。北京・ロンドン・リオの3大会に出場。北京では銀メダル獲得。上野聖也 聖徳選手

沖縄市生まれ、車いすアスリート。代表：アサヒ・東京・ロンドン・リオの4大会に出場。リオでは銀メダル獲得。山本 真 選手

豊城聖徳市生まれ、17歳の時にマイク香取に介助として出会い、東京五輪にて左足大指関節炎にて北京・ロンドン・リオの3大会に出場。北京では銀メダル獲得。山本 真 選手

主催：琉球大学医学部附属病院 リハビリテーション部
 共催：一般社団法人 ハビリスジャパン 協賛：おきぎんふさと復興基金
 協力：(有)砂田義肢製作所 (株)オートボック・ジャパン
 後援：東京大学スポーツ先端科学研究拠点
 何か不明な点があれば下記のメールアドレスへご連絡ください。
 アドレス：okinawa.kids.running2020@gmail.com

<https://forms.gle/W6GDpqn>
 上記のQRコードを読み取り参加申し込みを行ってください。

沖縄 PAFF
キッズランニングスクール
車いすスポーツ体験会

パラアスリートがやってくる!!

※本イベントは (公財)おきぎんふさと復興基金の助成を受けております

~イベント内容~
 ①車いすスポーツ体験
 ②義手・義足体験
 ③体力測定

北京パラリンピック 車いす陸上
 銀メダリスト
 上野聖也 寛和 選手

リオパラリンピック 車いすラグビー
 銀メダリスト
 神宮 選手

2020年11月28日【土】 14:00~16:30 (13:30 開場)

会場：環境の杜 ふれあい (島尻郡南風原町新川 588)

主催：琉球大学病院 リハビリテーション部
 共催：一般社団法人 ハビリスジャパン
 協力：(有)砂田義肢製作所 オートボック・ジャパン (株)
 問い合わせ先：沖縄キッズランニングスクール・車いすスポーツ体験事務局
 メールアドレス：okinawa.kids.running2020@gmail.com

新型コロナウイルス感染拡大のため延期

イベント開催ポスター

6. 広報活動

沖縄県内全市町村の社会福祉協議会、沖縄県更生相談所、沖縄県内の療育医療センター（南部、中部、名護）、沖縄県内の療育士養成校（沖縄リハビリテーション福祉学院、琉球リハビリテーション学院）、沖縄トヨタ、琉球ダイハツ、A&W、スポーツ DEPO、豊見城市民体育館、豊見城市役所、沖縄銀行（デジタルサルネイジ）、沖縄県整形外科医学会、沖縄県リハビリテーション医学会（メール発信）

7. イベント開催

日時：2020年11月28日(土曜日) 14:00~16:45
 場所：環境の杜ふれあい(島尻郡南風原町新川 588)
 主催：琉球大学病院 リハビリテーション部
 共催：一般社団法人 ハビリスジャパン

協力：(有)砂田義肢製作所 (株)オットーボックジャパン

後援：東京大学スポーツ先端科学研究拠点

対象者：手足に欠損や障害がある子どもたち

参加人数：総勢 74 名（参加者 53 名、運営スタッフ 21 名）

参加者

16 家族：対象児童 17 名+兄弟 5 名 保護者：31 名

運営スタッフ（東大スタッフは ZOOM 参加）

(有)砂田義肢製作所、琉球リハビリテーション学院、沖縄リハビリテーション福祉学院、名護療育医療センター、リハビリクリニックやまぐち、(株)遊動 Chief Grow Path Adviser、オットーボック・ジャパン(株)、東京大学医学部附属病院リハビリテーション部、一般社団法人 ハビリスジャパン、琉球大学病院整形外科学、看護部 ※順不動

招聘パラアスリート

上与那原寛和（沖縄市出身、北京・ロンドン・リオ 3 大会出場、車いす陸上）

※新型コロナウイルス感染流行のため下記 2 選手は不参加

- ・仲里進（浦添市出身、アテネ・北京・ロンドン・リオ 4 大会出場、車いすラグビー）
- ・山本篤（静岡県出身、北京・ロンドン・リオ 3 大会出場、左大腿義足、走り幅跳び）

実施内容

A. 体力測定（身長・体重、腹囲、握力、15m 走）

※長座体前屈、プッシュUP、25m走、立ち幅跳び・スラローム、両足連続跳び越し、ボールキャッチは新型コロナウイルス感染拡大のため実施せず

B. 車いすスポーツ体験（レーサー乗車体験、車いすラグビー体験）

C. 筋電義手、義足（スポーツ用）でのランニングスクール



イベントの様子

8. 障がい者スポーツの紹介

競技の紹介スライド（琉球リハビリテーション学院の授業の一環）

 <p>車いすラグビー</p>	<p>車いすラグビーとは</p> <ul style="list-style-type: none"> 車いす同士の出つき合いが許された唯一のパラリンピック車いすラグビーは比較的、重い障がいのある人が競技できるチームスポーツとして考案。 その楽しさは障がいがあるとほじけられないほど。 ぶつかり合う姿は、ラグビーそのもので、観客を圧倒する力がある。 別名「マダーボール（殺人球技）」! 	 <p>車いすバスケット</p>	<p>競技の特徴</p> <p>コートは大ききゴールの高さも、通常のバスケットボールと同じルールが適用される。ただし、車いすの特性を考慮し、ボールを持ったまま2ダッシュまで走ります。またゴールのすぐそばにゴールラインがあり、コート上の合計が14点になるまでゴールを打つことも勝利の力を運ぶ。</p>
<p>ルール①</p> <p>男女混合 コート上には4名 コート上の選手の 合計点が8点以内</p> <p>選手の交代は、 回数制限なし</p> <p>持ち点 軽い一点数高い 重い一点数低い</p>	<p>ルール②</p> <p>試合時間</p> <p>10秒ルール</p> <p>ファウル スピンニング・ファウル サイリーガル・ユース オブ・ザ・ハンズ・ファウル</p>	<p>ルール</p> <p>コートは通常のバスケットボールコートと同じものを使用。</p> <p>ゴールはインテールをほんで10分間のビデオを4回行う。</p>	<p>クラス分け 車いすバスケット特有のルール</p> <ul style="list-style-type: none"> 車いすバスケットボールの選手には、障害の重い軽いがらみの持ち点の差が大きい。平均的機能を持つ選手には0.5点を加える。 試合中コート上の5人の持ち点の合計が14.0を超えてはならない。 クラス分けの目的は、障害の重い選手も軽い選手も等しく試合に出場するチャンスを手えるためである。 クラス分けは車いす駆動、ドリブル、パス、ボールコントロール、シートの、リバウンド等の動作はもとより、車いすの重心における体のバランス能力とボールコントロール範囲に応じて分けられる。
<p>試合用具</p> <p>車いすラグビー専用球の バレーボール5号 座の上でボールを保持できない選手は、 専用のボール置きを装着 グリップ面はゴム製でグザグザしている</p> <p>攻撃</p> <p>守備</p>	 <p>撮影協力: 沖縄ハリケーンズ 練習 毎週日曜日 アンパルビティーズ読海 選手/スタッフ募集中</p>	<p>見どころ</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 激しい身体接触、目撃キックがとれない。目をかわすのが難しい。激しい身体接触がもたらす激しい身体接触。激しい身体接触がもたらす激しい身体接触。激しい身体接触がもたらす激しい身体接触。 20. 激しい身体接触がもたらす激しい身体接触。激しい身体接触がもたらす激しい身体接触。激しい身体接触がもたらす激しい身体接触。 30. 激しい身体接触がもたらす激しい身体接触。激しい身体接触がもたらす激しい身体接触。激しい身体接触がもたらす激しい身体接触。 40. 激しい身体接触がもたらす激しい身体接触。激しい身体接触がもたらす激しい身体接触。激しい身体接触がもたらす激しい身体接触。 45. 激しい身体接触がもたらす激しい身体接触。激しい身体接触がもたらす激しい身体接触。激しい身体接触がもたらす激しい身体接触。 	<p>見どころ</p> <ul style="list-style-type: none"> 激しい身体接触を描くシュートの正確性や重たい走るスピード感、勢いあまって斬断もある選手同士の激しいぶつかり合いなど、多彩な魅力が人気の競技。 クラス分けによるポイントがあるため確実な選手起用が必要で、前線戦略に基づいた役割分担によるチームワークも見どころ。 巧みな車いす操作（キョウアスル）も見どころ。車いすはブレーキがなく、ダッシュ、ストップ、ターンなど選手はすべて自分の手で行う。シュートは激しいドリブルやダッシュが欠かせないため、ほとんどの選手は激しい走りを操作する。身体を操ることで体の一部のように車いすを操る選手もいて、その身体能力の高さも見どころ。

車いすラグビー

車いすバスケット

9. 今後の展望

手足の欠損、麻痺性疾患、骨系統疾患、重度の障がいを持つ子ども達に対して、身体を動かすことを通して社会活動を促すとともに、自立心、挑戦する心、自己肯定感を高めることを目標とし、この活動を継続していく。その一環として、障がい者スポーツの普及に取り組み、県内で活躍するパラアスリートの紹介、県内の障がい者スポーツチームの紹介・交流などを行い、将来のパラアスリートの発掘や育成へと繋げたい。それに加え、障がい児のメタボリック対策や二次障がいに対する予防医療への貢献、さらに高齢者を含めた地域医療の活性化にも寄与したいと考えている。

上肢欠損に対する義手の普及に関しては、沖縄県内での処方件数の増加やリハビリテーションの実施可能な体制を構築するよう、さらに情報を発信していきたい。当面は兵庫県立総合リハビリテーションセンターが行っている小児義手バンクへの参加により、義手のスムーズな提供を図っていきたい。運動用義手はハビリスジャパンの無料貸与システムを利用し、マット運動や鉄棒といった学校体育への参加も促していきたい。

このようなイベントから障がいを持つ子ども達のリアルなニーズを知り、分析し、課題を見つけ、今後の活動に活かし、障がいに対する理解、可能性を広げるための活動に精通した人材育成を行うことも必要と考えており、今後取り組んでいきたい。

10. 謝辞

今回のイベントを開催するにあたり、「2019 年度おきぎんふるさと振興基金」のご支援をいただきましたことを心より感謝を申し上げます。多方面での活動ができ、今後の発展につなげることができました。関係者一同、心より感謝を申し上げます。